

みなみやすひら
新基幹種雄牛「南安平」 , かつとしなみ
「勝利波」

畜産試験場

1 取り上げた理由

肉用牛集団育種推進事業による和牛産肉能力検定は、優れた宮城県産の種雄牛を造成し地域の肉用牛の改良を推進するため実施されている。産肉能力検定の結果、宮城県の肉用牛改良委員会で「南安平」, 「勝利波」が宮城県基幹種雄牛として認定されたので、その特性を示し普及技術とする。

2 普及技術

1) 和牛産肉能力検定済み種雄牛 「南安平」, 「勝利波」

2) 特性等

a 生年月日, 産地, 血統, 特性(優点・欠点)

| 名号 | 生年月日 | 産地 | 父 | 母方祖父 | 母方曾祖父 | 優点 | 欠点 |
|-----|----------|-----|----|---------|-------|------------|------------|
| 南安平 | H13.1.13 | 涌谷町 | 安平 | 紋次郎 | 南波竹 | 発育, 資質, 体伸 | 外腿, 肩端, 肋張 |
| 勝利波 | H13.11.7 | 登米市 | 茂勝 | 安福165の9 | 糸晴波 | 発育, 資質, 体伸 | 肋張, やや肩後 |

b 現場後代検定

| 名号 | 現場後代検定 | | | | | |
|--------------------|--------------------|------|-------|-------------------|---------|-------|
| | 検定頭数 | 出荷月齢 | 枝肉重量 | ロース芯面積 | BMS No. | A4・5率 |
| 南安平 | 20 ^(注1) | 29.7 | 414kg | 57cm ² | 5.6 | 50% |
| 勝利波 | 18 ^(注2) | 28.5 | 438kg | 54cm ² | 5.4 | 50% |
| 全国 ^(注3) | — | — | 428kg | 53cm ² | 4.9 | — |

(注1): 去勢牛10頭, 雌牛10頭 (注2): 去勢牛11頭, 雌牛7頭 (注3): 平成20年度広域後代検定平均値

3 利活用の留意点

- 1) 南安平は発育, 資質, 体伸に優れており, ロース芯面積, バラの厚さ, 推定歩留の遺伝能力が非常に高い。
- 2) 南安平の交配には, 奥北茂, 茂洋, 茂勝, 第2波茂, 茂糸波など本県基幹種雄牛の娘牛や, 平茂勝, 第1花園, 北国7の8, 菊谷等の娘牛が推奨される他, 鹿児島・宮崎からの体積が充実した導入牛にも適している。
- 3) 南安平と安平の娘牛との交配では近交係数が15%となるので, 避けた方がよい。
- 4) 勝利波は発育, 資質, 体伸に優れており, 枝肉重量, ロース芯面積, 脂肪交雑の遺伝能力が高い。
- 5) 勝利波の交配には, 奥北茂, 第2波茂, 茂糸波など本県基幹種雄牛の娘牛や, 平茂勝, 第1花園, 北国7の8, 紋次郎, 菊谷等の娘牛が推奨される他, 鹿児島・宮崎からの体積が充実した導入牛にも適している。
- 6) 勝利波と茂勝の娘牛との交配では近交係数が17%となるので, 避けた方がよい。

(問い合わせ先: 畜産試験場酪農肉牛部 電話0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間 肉用種雄牛の検定 昭和55年～

2) 参考データ

a 和牛産肉能力直接検定成績

| 名号 | 1日平均 増体重 | 365日 補正体重 | TDN 要求率 | 粗飼料 摂取率 |
|-----|-------------|--------------|------------|------------|
| 南安平 | 1.77kg | 467.3kg | 3.32 | 32% |
| 勝利波 | 1.04kg | 434.0kg | 4.89 | 38% |

b 「南安平」, 「勝利波」の標準化育種価 (SBV)

平成20年10月分析 宮城県和牛育種価報告より算出

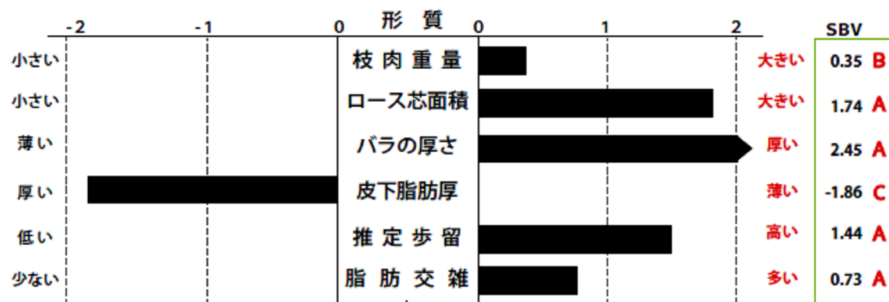


図1：南安平の推定育種価

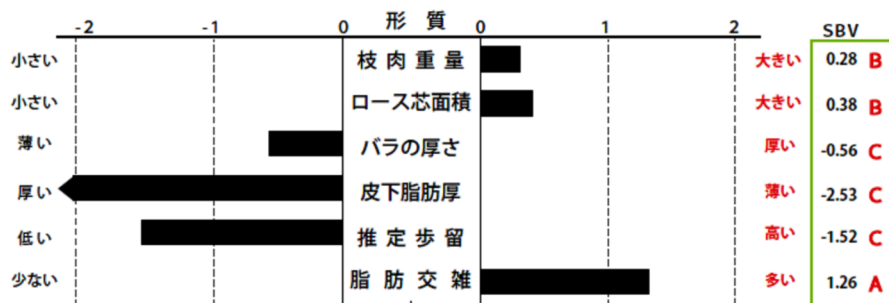


図2：勝利波の推定育種価

*標準化育種価 (SBV) について

- ・上記6形質について、県内繁殖雌牛の平均値を0として種雄牛の持つ遺伝能力(育種価)を次式によって標準化したもの。2～-2は標準偏差(σ)単位

$$SBV = (\text{当該種雄牛の育種価} - \text{県内繁殖雌牛の育種価平均}) / \text{県内繁殖雌牛の育種価}$$

- ・標準化育種価の値が大きいくほど好ましく、その大ききで個体の持つ能力・特徴を表すことができる。
- ・一般的に1を超える場合、その能力を強く有するものとみることができる。

*育種価「A～C」評価について

- ・各形質において、上位1/4以上の範囲に入る育種価を持つ個体を「A」、上位1/4未満、平均以上の育種価を持つ個体を「B」、平均未満の育種価を持つ個体を「C」として表示。

3) 発表論文等

なし